

## 思い出のヴェール

頑なに心にベルが鳴る

受話器を取れば向こうから  
聞こえてくる笑い声  
戯れるように私の肩に手を乗せる

どこへ逃げても駄目なのだ  
聞こえてくる、耳元で  
古い典雅な舞曲が誘う

これだけは僕ひとりのもの  
確かに僕だけのものであるはず  
他人には決して触れさせない

頑なに心にベルが鳴る

受話器を取れば向こうから  
聞こえるはずはないのだが  
戯れるように私の肩に手を乗せる

いきなり突きつけられたのだ  
聞こえるはずはない、耳元で  
なまなまし過ぎる声がささやく

ああ  
頑なに心にベルが鳴る

(1982.2.7)